

二〇一二年二月二十五日(中山寺)

七堂伽藍雪解雫の音奏ず	うちの猫こんなところに涅槃絵図	涅槃図の裾より亀の急ぐかに	雪解水垂るる地藏の福耳に	顔伏せて悲しむ猫や涅槃絵図	水子仏並ぶ頭上に雪帽子	公園に独りぼつちや雪だるま	観音の御手指す方に笹子鳴く	梅ひらくみむね豊かに観世音	はだれ雪薨の波にすべりけり	観音へ磴七曲り梅探る	昨夜の雪観音像を莊嚴す	赤鬼の歎きもつとも涅槃絵図	石庭の砂紋のままに雪残る	小窓より濁世の光涅槃寺	無垢の雪裳裾としたる観世音	雪解水をちこち池に水輪生る	四囲の木々こぞりて芽ぐむ観音像	春灯五百羅漢の私語聞かな
うつき	"	"	"	有香	"	"	"	菜々	"	"	"	はく子	"	"	"	かれん	"	"

白象のなげき雄叫ぶ涅槃絵図	山門のわらじ触るればほの温し	夫に似し羅漢に出会ふ春の夢	恋の絵馬達筆なりし梅二月	涅槃図を拝む顔みな畏まる	雪解水垂るる山門走り抜く	春愁や彩色落ちし羅漢像	極彩の高き塔より雪解水	雪だるま汚れやんちゃの児のごとし	猪来ると注意札立つ梅の苑	観音像まなざしやさし梅ほころぶ	涅槃図の阿鼻叫喚の中の寂	山門の雪解雫に打たれ入る	春塵の一穢なき堂経ひびく	目覚めよとすべての木々に春の雪	涅槃図に近づけば吾も衆生かな
よし子	"	"	宏虎	"	わかば	"	小袖	"	こすもす	"	明日香	せいじ	満天	"	"

吟行句会みのる選

二〇一二年二月二十五日(中山寺)